

すべての人が人間として尊ばれ、生きがいを持ち、心豊かに、安心して安全に暮らせる長寿社会の実現

視点	主な取組	目標	内容
認知症の人の尊厳が保持され、地域の一員としてその人らしく暮らし続けることができる	I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	市民の認知症への理解を広げる	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座・学習会・講演会等の開催 認知症啓発イベントの開催 認知症ガイドブック(認知症ケアパス)を活用した啓発 「認知症の人と家族の実態調査 こころの声アンケート」の実施と活用
認知症の人やその家族の思いを重視する	II 認知症の発症遅延、進行緩和の推進	<ol style="list-style-type: none"> 発症遅延や発症リスク低減(一次予防) 早期発見・早期対応(二次予防) 重症化予防、機能維持、BPSDの予防(三次予防) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための普及・啓発 いきいきもりん体操やサロン等を通しての生きがいづくりや社会参加の促進 早期発見の重要性の啓発 認知症について相談できる場の確保と相談先の周知 認知症地域支援推進員の機能向上 認知症初期集中支援チームの充実と連携強化 地域ケア会議やネットワークづくりを通して、関係機関での連携強化の仕組みづくり かかりつけ医、もの忘れ相談医を中心とした医療と介護の連携強化 BPSDの予防や適切な対応についての普及・啓発と専門職の対応力の向上
誰もが認知症について偏見なく正しく理解している	III 切れ目のない医療・介護サービス体制づくり	<ol style="list-style-type: none"> 切れ目なく認知症治療が受けられる体制の整備 切れ目なく介護サービスが受けられる体制の整備 医療と介護の多職種間の連携強化及び支援体制の仕組みづくり 発症以前より意思決定を行いながら将来を迎えることができる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員、かかりつけ医、認知症サポート医、認知症専門医、認知症疾患医療センターの連携が取れる体制づくり 在宅医療・介護連携支援センターを活用した多職種間の連携の推進 認知症対応力向上研修の開催 地域資源の発掘と資源の見える化による地域との情報共有 発症以前より将来の生活について意思決定することについての普及・啓発 わたしの人生ノート等を活用し、本人の意思決定を関係者間で共有できる取組
認知症になっ ていない人も 予防および 早期発見の ための手立 てをとるこ とができる	IV 地域での日常生活・家族支援の強化	<ol style="list-style-type: none"> 認知症の人を支える地域づくり 家族介護者の負担軽減等への取組の強化 高齢者の虐待防止などの権利擁護の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「認知症の人と家族の実態調査 こころの声アンケート」の実施と活用 認知症について相談できる場の確保と相談先の周知 地域住民や企業を含めた関係機関による高齢者見守りの推進 認知症カフェ・認知症高齢者見守り声かけ訓練等の取組への支援 認知症になっても社会参加できる場・仕組みづくり 認知症高齢者QRコード活用見守り事業の普及啓発 認知症サポーター活躍の仕組みづくり キャラバン・メイトの活動の充実 認知症地域支援推進員の機能向上 認知症の人と家族の会の周知と情報共有・意見交換 高齢者虐待・詐欺被害防止の啓発と研修会の開催 成年後見制度、権利擁護センター事業の普及及び推進
公助・共助のサービスに加え、地域住民やボランティア等による支え合い(互助)により認知症のそれぞれ段階に応じて適切に途切れなく受けることができる	V 若年性認知症への対策	<ol style="list-style-type: none"> 若年性認知症への理解を広げる 相談先の周知 若年性認知症の特性に応じた専門的支援ができる体制づくり 居場所・生きがいづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等への若年性認知症の普及・啓発 産業保健担当者・担当機関への周知 若年性認知症の研修会の開催 実態調査(県)の結果の反映 気軽に相談できる居場所や活動の場の充実と周知 地域活動や就労など社会参加へ向けた取組の推進